

# 2018年度 「防災教育チャレンジプラン」

「自分の命は自分で守る」

～「自助」と「共助」～

熊本県 球磨村教育委員会



球磨村マスコットキャラクター  
くまんたろう

## ◇球磨村の概要

○村の中央部を**日本三急流のひとつ「球磨川」**

が流れ、**総面積の88%が山林**で村全体が山間部であります。

○「球磨川下り」や「ラフティング」で賑わい、

日本棚田百選の棚田、九州最大規模の鍾乳洞

「球泉洞」、「一勝地温泉かわせみ」などを有する

人口約3,840人の小さな村です。

○村内には、**小学校2校、中学校1校**があり**児童生徒数は約270名**です。

本村は東西に13.5km、南北に25kmと校区が広く**中学生の88%、**

**小学生の45%がスクールバスで通学**をしています。



## 棚田



## 球磨川



**自然が豊かできれいな村です。が・・・**

# 洪水・土石流・台風など多くの災害がこれまでも発生



洪水

本村の中央を流れる球磨川や支流河川では、洪水時には浸水などの被害が発生します



台風

夏から秋には台風が通過し、多くの被害をもたらします

土石流



梅雨、台風により村内いたるところで土石流が発生、被害や孤立することもあります

地震



平成28年の熊本地震では県内に多くの被害をもたらしました。球磨村も断層帯の近くであり、大きな地震が発生する可能性もあります

平成30年7月6日 西日本豪雨のときの災害  
「河川氾濫」・「山腹崩壊」・「土石流」が発生



# 球磨村地域防災計画

平成30年度 追加

追加点の一部

① 「地震想定概要」

球磨村の影響を及ぼす断層帯は三つあり、  
最大で震度5～震度6弱の地震が発生する可能性があること。

② 災害に関する協定

大災害に見舞われた場合に、近隣市町村及び関係機関との協定に基づく迅速な災害対応が必要。 など

この中に

「防災知識普及計画」のひとつに  
「平成30年度 防災教育チャレンジプラン」  
が追加されました・・・

# ①「球磨村防災会議」・「村民防災会議」

◇防災について村民自らが話し合い、**災害時における人的被害ゼロ**を目指した仕組みづくりを行う

【球磨村防災会議】村全体の防災会議

【村民防災会議】村内を5ブロックに分け、村民が防災について話し合う

- ①**自助** 村民ひとりひとりが  
命を守るための具体的な方法を習得する
- ②**共助** 地区のみんなで  
助け合いの方法について日頃から話し合い、決めておく
- ③**公助** 役場として  
さまざまな制度や方策を組み立てる
- ④**連携** 国や県などの関係機関が  
情報提供や施設整備の面から、自助・共助・公助を支える

## ②球磨川水害タイムライン

◇災害時の各機関の対応を時間軸に沿って「いつ」「誰が」「何をするか」をあらかじめ計画したもので、災害対応を迅速に進めるための手段の一つ。

風水害時において、関係機関や住民の方が自ら作成したタイムラインに沿って行動することで、

- ①「連携した対応」
  - ②「平常時から非常時への切替え」
  - ③「災害対応(判断や行動)の遅れや漏れの防止」
- などが期待できる。

「運用」→「ふいかえり」→「改善」というPDCAサイクルで、  
継続的な取組が重要！



球磨村・球磨川水害タイムライン 《総括表》

黄色：合意の予報情報等をもとに、必要に応じて早めの対応が可能な項目。(可能であれば前ステージで対応)

青文字：水害時の行動  
赤文字：土砂災害時の行動

ステージ		ステージ1 (準備)	ステージ2 (警戒)	ステージ3 (早期避難)	ステージ4 (避難)	ステージ5 (避難完了)	ステージ6 (応急対応)	ステージ6 (警戒の解除)
		体制に備えて情報伝達・人員確保・資機材点検	配備体制、警戒伝達	避難に時間がかかる人の避難完了	水平避難の完了	避難撤退	救命・救護、退水対策早期復旧	
球磨村からの避難情報		大雨・洪水注意警報発表	大雨・洪水警報発表	水防団待機水位超過	氾濫注意水位超過	氾濫危険水位超過	堤防決壊水救超過	
村民に求められる避難行動			避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示(緊急)	避難完了		
行動目標	行動項目	渡水水位観測所の水位上昇イメージ		避難準備水位 7.80m 氾濫注意水位 8.00m	氾濫危険水位 8.70m	堤防決壊水位 12.87m	球磨川 氾濫	
100 防災体制の確立	101 タイムラインの運用管理	<input type="checkbox"/> TLの立ち上げ判断に関する情報収集 <input type="checkbox"/> TLの立ち上げの判断(決定)	<input type="checkbox"/> ステージ2移行に関する情報収集 <input type="checkbox"/> ステージ2移行の判断(決定)	<input type="checkbox"/> ステージ3移行に関する情報収集 <input type="checkbox"/> ステージ3移行の判断(決定)	<input type="checkbox"/> ステージ4移行に関する情報収集 <input type="checkbox"/> ステージ4移行の判断(決定)	<input type="checkbox"/> ステージ5移行に関する情報収集 <input type="checkbox"/> ステージ5移行の判断(決定)	<input type="checkbox"/> ステージ6移行に関する情報収集 <input type="checkbox"/> ステージ6移行の判断(決定)	<input type="checkbox"/> 警戒解除に関する情報収集 <input type="checkbox"/> 警戒の解除に関する決定
	102 防災体制の決定	<input type="checkbox"/> 防災行動・避難準備に関わる決定	<input type="checkbox"/> 職員の動員配置(第1配備) <input type="checkbox"/> 災害対策支那の設置時期の確認	<input type="checkbox"/> 職員の動員配置(第2配備)	<input type="checkbox"/> 職員の動員配置(第3配備) <input type="checkbox"/> 災害対策本部の設置			
200 防災情報の収集・伝達	201 防災情報の収集・整理(受け手になる場合)		<input type="checkbox"/> 関係機関への訪言依頼	<input type="checkbox"/> 関係機関への訪言依頼	<input type="checkbox"/> 関係機関への訪言依頼	<input type="checkbox"/> 関係機関への訪言依頼	<input type="checkbox"/> 関係機関への訪言依頼	<input type="checkbox"/> 関係機関への訪言依頼
	202 防災情報の発信・伝達(送り手になる場合)	<input type="checkbox"/> TL立ち上げの本部からの周知 <input type="checkbox"/> ステージ1対応状況の確認	<input type="checkbox"/> ステージ2の移行の周知 <input type="checkbox"/> ステージ2以降の対応方針の検討 <input type="checkbox"/> ステージ2 対応状況確認 <input type="checkbox"/> 本部からの周知(大雨警報もしくは洪水警報の発表) <input type="checkbox"/> 本部からの周知(大雨警報の見込み)	<input type="checkbox"/> ステージ3の移行の周知 <input type="checkbox"/> ステージ3以降の対応方針の検討 <input type="checkbox"/> ステージ3 対応状況確認 <input type="checkbox"/> 水防団待機水位の到達の周知 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報の発表の見込みの周知	<input type="checkbox"/> ステージ4の移行の周知 <input type="checkbox"/> ステージ4以降の対応方針の検討 <input type="checkbox"/> ステージ4 対応状況確認 <input type="checkbox"/> 氾濫注意水位到達の周知 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報の周知 <input type="checkbox"/> 職員退避・撤退基準の詳細を周知	<input type="checkbox"/> ステージ5の移行の周知 <input type="checkbox"/> ステージ5以降の対応方針の検討 <input type="checkbox"/> ステージ5 対応状況確認 <input type="checkbox"/> 氾濫危険水位到達の周知 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報(実況)の発表の周知	<input type="checkbox"/> ステージ6の移行の周知 <input type="checkbox"/> ステージ6以降の対応方針の検討 <input type="checkbox"/> ステージ6 対応状況確認 <input type="checkbox"/> 被害状況の周知 <input type="checkbox"/> 応急対応の周知	<input type="checkbox"/> 警戒の解除に関する周知
300 住民避難への対応	301 住民避難の意思決定			<input type="checkbox"/> 避難準備・高齢者等避難開始の適否判断、発表時期の検討 <input type="checkbox"/> 避難場所、ルートの確認	<input type="checkbox"/> 避難勧告の適否判断、発表時期の検討 <input type="checkbox"/> 避難場所、ルートの確認	<input type="checkbox"/> 避難指示(緊急)の適否判断、発表時期の検討 <input type="checkbox"/> 避難場所、ルートの再確認		
	302 住民への避難情報の提供	<input type="checkbox"/> 土砂災害に対する早めの避難呼びかけ	<input type="checkbox"/> 予防的避難の呼びかけ時期の検討	<input type="checkbox"/> 避難準備・高齢者等避難開始の発表	<input type="checkbox"/> 避難勧告の発表	<input type="checkbox"/> 避難指示(緊急)の発表		
	303 避難誘導		<input type="checkbox"/> 要援護者・住民の自主避難	<input type="checkbox"/> 要援護者の避難	<input type="checkbox"/> 住民の避難	<input type="checkbox"/> 逃げ遅れた住民の避難		
	304 予防的避難所の開設・運営(自主避難所を含む)	<input type="checkbox"/> 自主避難所の開設の準備 <input type="checkbox"/> 予防的避難所の開設の準備	<input type="checkbox"/> 自主避難所の開設・運営	<input type="checkbox"/> 指定避難所の開設・運営				
	305 福祉避難所の開設・運営	<input type="checkbox"/> 福祉避難所の開設の準備 <input type="checkbox"/> 高齢者・要支援者施設への誘導伝達の実施		<input type="checkbox"/> 福祉避難所の開設				
	306 要配慮者の避難対応	<input type="checkbox"/> 要配慮者の支援の準備	<input type="checkbox"/> 高齢者・要支援者施設への情報提供	<input type="checkbox"/> 高齢者・要支援者施設への情報提供				
	310 指定管理者に管理委託する公共施設の避難対応		<input type="checkbox"/> 公共施設閉鎖の判断 <input type="checkbox"/> 行事開催の判断	<input type="checkbox"/> 公共施設閉鎖の実施				

# 学校(教育委員会)が、「防災教育チャレンジプラン」に取り組む**目的**及び**期待される効果**

**その1** 「村民防災会議」や「球磨川水害タイムライン」へ学校や児童生徒がどう**参画**するか。また球磨村の**現状**を**理解**し、**様々な防災に対する意識を高めていくか**？

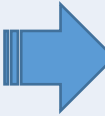
**その2** 小中学校の教職員及び児童生徒が  
「**自助**」= 自分の命は自分でどう守るか？  
「**共助**」= 地域とともに災害に対し何が出来るか？



# 「防災チャレンジプラン」への取り組み

月	内容
4月	<b>組織づくり</b> <ul style="list-style-type: none"><li>◆教育委員会 ⇒ 村内校長会議で防災計画について協議</li><li>◆学校 ⇒ 防災主任、村民防災会議での各ブロック会議の担当者決め</li></ul>
5月14日 ～18日	<b>村民防災会議(6ブロック会議)への各学校の教職員参加</b> 地域の現状を理解する。
6月 1日	<b>教職員対象の3校合同の防災学習(講演会)</b> 【講師；球磨村役場 中渡徹 防災管理官】 <ul style="list-style-type: none"><li>①地域の脆弱性を把握し、予想される災害リスクを知る</li><li>②村民防災会議、球磨川水害タイムラインのこれまでを知る</li><li>③防災教育チャレンジプランの概要を知る</li></ul>
6月 7日 ～8日	<b>「小学生対象の子ども救命士講習」 渡小学校</b> 消防署職員による小学生を対象とした。「子ども救命士」講習を実施し、「心配蘇生法」や「応急処置」、「身の回りの危険」について学んだ。
6月19日	<b>「村民対象の気象学習会」への参加</b> 元気象庁に勤務されたNPO環境防災総合政策研究所の村中明氏による気象学習会へ教職員も参加。本村の周辺地域の地形等の特徴が気象に与える影響、気象の専門用語や大雨や台風を生み出す要因等を学んだ。

月	内容
6月20日	<p><b>「渡地区タイムライン検討会」への教職員の参加</b></p> <p>「水害に備えた渡地区コミュニティタイムライン」の素案についての検討会に管理職や防災主任が参加し、タイムラインの必要性を強く確認できた。</p>
8月3日	<p><b>「小学5・6年生対象の防災学習会」を実施</b>  <b>～自分が助かる・周りの人を助けるために！～</b></p> <p>【講師；球磨村役場 中渡徹 防災管理官】</p> <p>村の防災管理官を講師に、村内で発生した災害や今後予想される災害等について学習した。</p>
8月25日	<p><b>「災害ボランティアセンター設置訓練」に中学生が参加</b></p> <p>人吉球磨管内社会福祉協議会主催の訓練に、球磨中生29名が参加。</p>
8月31日	<p><b>「中学生対象の防災学習会」の実施</b>  <b>～自助・共助って何だろう！～</b></p> <p>【講師；球磨村役場 中渡徹 防災管理官】</p> <p>村の防災管理官を講師に、村内で発生した災害や今後予想される災害等について学習した。</p> <p>雨量観測所の説明や、球磨村でも起こりえる大規模な地震について説明を受け、避難方法と避難所でのボランティア活動について学んだ。</p>
10月	<p><b>10月27日～28日 中間報告会</b></p>

月	内容
11月1日	<p><b>熊本シェイクアウト訓練参加</b>            村内小中学校及び村内全域で同じ日、同じ時間に取り組む(防災無線で放送)</p>
12月9日	<p><b>小中学生、教職員及び保護者・地域住民等の「合同防災訓練」</b>            6月～11月 学校説明(校長会)・防災主任会議(2回)            10月～11月 自衛隊・消防署・消防団との打合せ            11月 住民説明会(2回)</p>
12月中旬	<p><b>村民防災会議(ブロック会議)に中学生が参加</b>            住んでいる班や地区での防災について取組を知り、自分たちにできることを考える。3会場(3名参加;保護者も同伴)            ※「防災教育チャレンジプラン」や合同防災訓練について中学生や地域住民の方が説明。</p>
12月 ～1月	<p><b>防災教育プログラム等の作成</b>            ①小中学生の「我が家のタイムライン」の作成【12月～1月】            ②「防災に関するポスター」を募集【12月～1月】            ③「防災に関する標語」を募集【12月～1月】</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block; background-color: #90EE90;"> <p><b>防災カレンダー を作成(2月)</b></p> </div> </div>
2月	<p><b>2月23日 最終報告会</b></p>

# 「防災教育チャレンジプラン」 これまでの取組

## ① 5月14日～18日(6会場) 「村民防災会議(ブロック会議)」 へ教職員が参加

教職員の防災意識の高揚のため、  
村が実施する防災ブロック会議へ  
管理職の参加をお願いした。



## ② 6月1日 「3校合同の教職員防災学習会」

教職員は村の防災について、  
取組みやこれまでの災害、今後  
考えられる 災害などについて、  
村の防災管理官から話を聞いた。



### ③ 6月7日～8日

#### 「小学生対象の子ども救命士講習」 渡小学校

消防署職員による小学生を対象とした「子ども救命士」講習を実施し、「心配蘇生法」や「応急処置」、「身の回りの危険」について学んだ。

### ④ 6月19日

#### 「村民対象の気象学習会」への参加

元気象庁に勤務されたNPO環境防災総合政策研究所の村中明氏による気象学習会へ教職員も参加。  
本村の周辺地域の地形等の特徴が気象に与える影響、気象の専門用語や大雨や台風を生み出す要因等を学んだ。

## ⑤ 6月20日

### 「渡地区タイムライン検討会」への教職員の参加

「水害に備えた渡地区コミュニティタイムライン」の素案についての検討会に管理職や防災主任が参加し、タイムラインの必要性を強く確認する機会となった。



## ⑥ 8月3日

### 「小学5・6年生対象の防災学習会」を実施 ～自分が助かる・周りの人を助けるために！～

村の防災管理官を講師に、村内で発生した災害や予想される災害等について学習した。災害から身を守ることや、避難所では小学生でも手伝えることがあり、それが周りの人を助けることができることを学習した。





⑦ 8月25日

## 「災害ボランティアセンター設置訓練」に中学生が参加

人吉球磨管内社会福祉協議会主催の訓練に、球磨中生29名が参加。中学生は炊き出し(アルファー米炊飯とハイゼックス米炊飯)、三角巾包帯法を実体験し、災害時の対応について貴重な体験となった。



⑧ 8月31日  
「中学生対象の防災学習会」の実施  
～自助・共助って何だろう！～

村の防災管理官を講師に、村内で発生した災害や予想される災害等について学習した。

雨量観測所の説明や、防災の日を前に、球磨村でも起こりえる大規模な地震について説明を受け、避難方法と避難所でのボランティア活動について学んだ。



# ⑨ 小・中学校等「合同防災訓練」(全体像)

訓練日時 平成30年12月9日(日) 0900~1330

①09:00 球磨村で震度5強の地震発生

自助・共助を体験する

- ①身を守る行動
- ②避難所開設を支援

球磨中  
体育館

③球磨中体育館に避難所開設

球磨中

- 中学生が体験する支援
- ①受付・誘導
  - ②地域支援
  - ③保育園支援
  - ④炊出し支援

渡・一勝地小学校が合同で、体育館においてイベントを実施中に地震が発生する場面を想定する。

一勝地  
小体育館

一勝地  
小



③住民と自衛隊による炊き出しを研修

自助を体験する

- ①身を守る行動をとった後、グラウンドに避難

球磨中グラウンド



③住民と自衛隊による炊き出しを研修

②柳詰地区で地滑り発生

防災無線で避難勧告の指示

④柳詰地区に避難勧告

柳詰地区の住民が球磨中体育館に避難する。

緊急派遣部隊

災害で直ちに派遣される部隊



一勝地小グラウンド

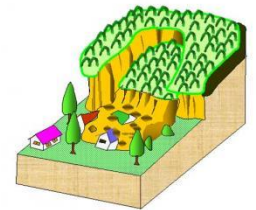
- ①自衛隊ヘリを使用した孤立者の救出を研修
- ②消防団が被災現場を上空から研修



②大規模風水害対策車(部隊)を研修

公助を知る

災害で復旧支援にあたる部隊



合同防災訓練における「小学生」の様子



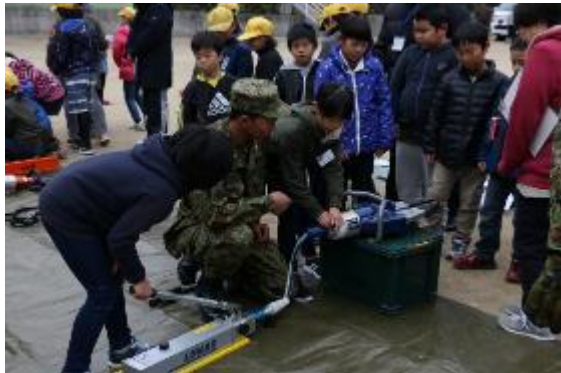
発災直後



運動場へ避難



消防団の説明



自衛隊による説明



消防署の説明



自衛隊による孤立者救出訓練見学



大規模風水害対策車の説明と乗車体験



ハイセックス米によるカレー<sup>20</sup>

# 合同防災訓練における「中学生」の様子 ①



避難所支援



こがね保育園支援



住民の方と中学生による地域確認



合同防災訓練における「中学生」の様子 ②



炊出し支援と配膳支援



消防団の説明



消防署の説明



自衛隊の説明



陸上自衛隊による孤立者救出訓練



大規模風水害対策車の説明と乗車体験



前日の避難所設置の様子 22

# 合同防災訓練における「住民避難」の様子



避難所の受付



避難所の全般説明



備蓄品の説明



避難所の体験



避難所の体験



避難所の体験



消防による防災教育



中学生による地域確認の打ち合わせ



自衛隊と住民(PTA)による合同炊き出し

## ⑩ 防災教育プログラムの作成（12月～2月）

### 我が家のタイムライン作成

小学校（5、6年生）と中学生（1、2年生）に冬休みを利用し、家庭で話し合い「**我が家のタイムライン**」を作成した。

事前に作成した内容に「空欄」を設けて空欄には家族で話し合った内容を記入できるように工夫した。

また、空欄だけの用紙を用意し話し合った内容を記入できるようにした。

### 防災に関する「ポスター」と「標語」の募集

○ 「防災教育チャレンジプラン」に今年度取組んだ児童生徒の思いや、イメージを形にするため、小学校3年生から中学生2年生に、冬休みや授業を利用し防災に関する「**ポスター**」と「**標語**」を募集した。

○ ポスターと標語については、数点を選び、2019年度の「**防災カレンダー**」を作成し掲載する。



# 台風に備えた「我が家のタイムライン」 学校名( ) 学校( ) 学年( ) 年( ) 名前( )

災害発生・台風最接近までの時間を簡単に表したものです		行 動  台風接近時に最低限、準備、対応してもらいたい行動をまとめた対策例です。ご家庭での事情に合わせて内容をご確認ください。		誰がしますか？ できる人に○をつけてみましょう！		
				保護者 	私 	その他の家族 ( )
普段から 		1 防災マップを利用し、家庭で防災について話し合う				
		2 避難路・危険箇所などを確認する				
		3 家庭にある防災無線のスピーカーを点検する（電池など）				
		4 近所の方達と声かけなど防災について話し合う				
		5 溝の掃除を行い、排水をよくしておく				
5日 から 4日前 まで	台風発生 	6 ニュースで台風情報を知る				
		7 非常持ち出し品を準備する				
		8 防災無線の指示を確認する				
		9 避難場所の確認をする				
3日 から 1日前 まで	台風接近 	10 買い出しなど早めに済ませる				
		11 ベランダや屋外にある物の飛散防止（飛ばないようにする）				
		12 窓ガラスなどを補強する（テープなど）				
		13 交通機関の運行情報の確認				
		14 河川水位情報・気象情報の収集				
		15 会社休業や学校休校の調整や確認				
		16 より安全な場所への早期避難をする				
当日 災害発生	台風最接近 	17 防災無線の避難指示に従い避難を開始する				
		18 近所の方達と連絡をとる				
		19 危険箇所には絶対に近づかない				
		20 危険箇所から離れた部屋で休む				

※空いている欄には、家族で話し合い「我が家の取り組み」を考えてみましょう！

# 大雨に備えた「我が家のタイムライン」 学校名( ) 学校( ) 学年( ) 年( ) 名前( )

梅雨前線に伴う大雨災害の時間を簡単に表したものです		行 動		誰がしますか？		
				保護者	私	その他の家族
普段から 		梅雨前線に大雨時に最低限、準備、対応してもらいたい行動をまとめた対策例です。ご家庭での事情に合わせ内容をご確認ください。		できる人に○をつけてみましょう！		
						( )
梅雨入り以降	注意報・警報の発令 	6	ニュースで大雨の情報を知る			
		7	非常持ち出し品を準備する			
		8	河川水位情報・気象情報の収集			
		9	外出を控える			
		10	避難場所の確認をする			
		11	防災無線の指示を確認し行動を起こす			
	土砂災害警報発令 災害発生 	12	近所の方達と連絡をとる			
		13	より安全な場所への早期避難をする			
		14	ニュースで情報を知る			
		15	近所の方達と連絡をとる			
		16	防災無線の避難指示に従い避難を開始する			
		17	危険個所には絶対に近づかない			
		18	危険個所から離れた部屋で休む			

※空いている欄には、家族で話し合い「我が家の取り組み」を考えてみましょう！

地震の時は・・・ 「普段から」の備えと、すぐに動ける対策を考えてみてください。

# 防災教育チャレンジプランに参加して「良かったこと」

- 1、 防災に関する「学習会」や「防災訓練」を通じて、  
**小中学生や教職員の防災意識が高まってきた。**
- 2、 「我が家のタイムライン」を家庭で話し合うことで、  
**家庭での防災意識の高揚につながった。**
- 3、 防災に関する「ポスター」と「標語」を募集し「防災カレンダー」を通じて、  
**小中学生や家庭、地域の防災意識の啓発**につながることを期待している。
- 4、 総務課（防災交通係）、各学校長及び防災主任、消防団、消防署、自衛隊、地域住民や保育園との連携や協力を得ることができ、国土交通省の八代河川事務所や川辺川砂防ダム事務所、環境防災総合政策研究機構（CeM I）から参考となる貴重なアドバイスをいただいた。  
→ **防災教育には地域の協力、専門的な助言が必要。**

## 防災教育チャレンジプランに参加して「大変だったこと」

- 1、小中学校を対象としたことで、年齢幅が広すぎて  
**小学1年生から中学生までの学習プログラムに苦慮した。**  
**「共助」の場面の設定ができなかった。**
- 2、防災訓練については、離れた学校を一か所にまとめたことで、  
**小学生の訓練に「体験する」ことを取り入れられなかった。**  
(時間、場所、参加人数の問題を反省)
- 3、学校だけでなく保育園、地域住民の参加と防災訓練の規模が大きくなり、承諾や周知、説明会や打合せが大変になった。  
**計画書作成に時間を要し、学校への周知が遅れ、打合せ回数が少なくなった。**

## 今後は、継続した「防災教育」を進める

【目標】 「自分の命は自分で守る」ことを常に意識し、  
普段からの準備と災害時に身を守れる行動がとれるために。

- 1、 「我が家のタイムライン」を**実効性のあるもの**に見直しをしながら、**各家庭で話し合いができるタイムライン**にしていく。
- 2、 今年度の全体的な防災学習を終えて、**今後は「土砂災害や洪水」など内容を絞った学習会**を小中学校で開催していきたい。
- 3、 地域と一緒に**小中学生も村民の一人として村の防災に関われるよう役場防災係と連携**を図っていく。

最後に…



「防災教育チャレンジプラン」に取り組んで

- 小中学生が一生懸命に取り組んでくれたこと
- 中学生が「地域の力」になると確認できたこと
- 学校を始め地域の防災意識の啓発につながること

など、これらを経験し、今後に大いに活かせる事業  
でした。

ご協力いただいた、防災教育チャレンジプランの事  
務局の皆様や助言者の方々、関係者の皆様に感謝します。  
ありがとうございました！